

子どもの活動から捉える遊び場の機能の探究 保育に児与する者の役職・活動時間に着目して

宮本雄太 (東京大学大学院・日本学術振興会)
秋田喜代美 (東京大学大学院) / 辻谷真知子 (白梅学園大学・日本学術振興会)
宮田まり子 (白梅学園大学) / 石田佳織 (園庭研究所)

1. 問題と目的

本研究の問題

子どもの発達と学びを保障する**構造の質**と**プロセスの質**の重要性(OECD, 2018)。
乳幼児期の教育は**環境を通して行うもの**(文部科学省, 2008等)。

- (1) 保育の**環境デザイン**は必須、屋内外の環境で**動/静の場**を**設える重要性**(OECD, 2016)。
- (2) 保育の質には、保育者と子どもの相互作用が大きく働く(Laevers, 2005)。
- (3) 保育の価値観や評価基準には、子どもとのかかわりを通して得た固有の文脈を反映させるべき(Dahlberg et al., 2007)。
- = (4) **屋外環境も同様に保育の価値観や評価基準に固有の文脈を反映する必要がある**(Clark and Moss, 2005)。
- (5) 発達を支援、育成する空間としての遊び場の意義は認知されている。遊びを保障する**時間の観点**も重要(Blatchford, 1998)。

- 教育における屋外の場では(4)(5)が見過ごされがち(Pearce and Bailey, 2011)。
- (6) 物理的な**場や資源に制限**、改造・改築等の**予算にも制限あり**(CEDEP, 2016; 2017等)。
- (7) 園庭に関する**環境構成の知識や技術の獲得は難しい**(高山, 2013)。

本研究の目的

1. 屋外環境である園庭について、保育に児与する者(管理職、実践者、事務員)は**子どもの活動の観点から**いかに場をとらえるのか、多様な立場での場の捉えを検討する。
2. 1.の捉えについて、園庭での**活動時間との関連**に着目して検討を行う。

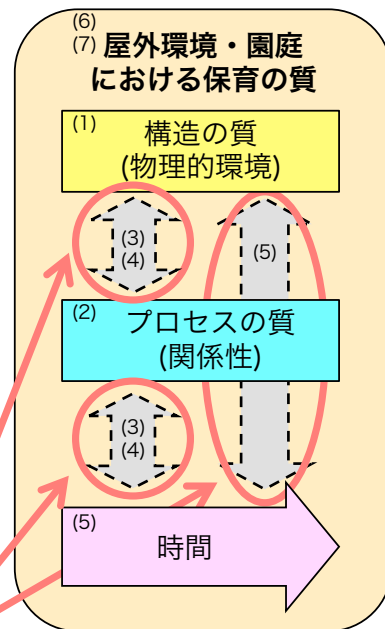


Fig. 1 問題と目的の簡略図

2. 方法

本研究は、保育に児与する者(管理職、実践者、事務員 注 右記参照のこと)が持つ遊び場の認識や活動時間との関連に迫るために、園庭の実態に関する質問紙調査を行った。

【研究協力園】 1,743園 (回収率49.8%)

【実施期間】 2016年10月~12月に実施。

【倫理的配慮】 質問紙の送付時に書面にて目的や倫理的配慮を説明、同意を得た。なお、本調査は、東京大学ライフサイエンス委員会倫理審査専門委員会による倫理審査を経て実施。研究倫理綱領に則り、協力園が特定される情報の漏えい防止とプライバシーの保護を徹底し、分析を行った。

【内容・方法】 遊び空間が持つ機能(宮本他, 2016参照)のそれぞれについて、各園の園庭で想定される遊び場を自由選択式(複数可)で回答してもらった。回答が得られた1,743園のうち、**園庭のある1,659園**について、1) 子どもの活動から捉える回答者の役職別での遊び場数と遊び場所の関係(構造の質とプロセスの質の関連の検討)、2) 園庭での活動時間と保育に児与する者が捉える遊び場数の関係(構造の質と時間の関連の検討)、の二点を分析検討した。

回答者の分類

質問紙の回答者欄

「園長、副園長、主任、担任保育者、事務員、教頭、その他」

↓ 上記役職を3群に分類

管理職(園長、理事長)

実践者(副園長、主任、教諭、教頭)

事務員(事務員、その他)

管理職 (n=922)

実践者 (n=445)

事務員 (n=111)

質問項目

Part2. 園庭における子どもの活動についてご回答ください。

1. 園庭の遊び場について、以下の機能が含まれる場がありますか。ある場合は、具体的な場所について、選択肢1.~29. から選び(複数選択可)、番号をご記入ください。ない場合は、「30」とご記入ください。

【選択肢】

1. 園庭全体	2. 開けたスペース	3. 雑草地や芝生地	4. 築山や斜面	5. 遊び小屋
6. 樹木	7. 生垣	8. トンネル	9. 砂場	10. 土の場所
11. 水道や井戸	12. 水路や池	13. プール	14. 花壇	15. 菜園
16. 飼育スペース	17. 複合型遊具	18. 鉄棒	19. ジャンダルジム	20. プランコ
21. 滑り台	22. 登り棒	23. うんてい	24. シーソー	25. 縁側・デッキ・テラス
26. 東屋	27. ベンチ	28. 屋外用机	29. その他	30. 該当なし

- 1) 子どもたちが隠れて遊べる場
- 2) 一息つくことができる場
- 3) 繰り返し同じような遊びができる場
- 4) 色々な発想を形にできる場
- 5) 他児の遊びを見ることができる場
- 6) 子どもたちの決まりやルールが生じる場
- 7) 子ども(たち)が自分(たち)の目標に向かって挑戦することができる場
- 8) 友達と待ち合わせをしたり、自然と集まったりする場
- 9) 想像を膨らませることのできる場
- 10) 五感を働かせる(五感を意識できる)場



3. 結果

(1) 回答された遊び場数と回答者の役職との関係

各園の回答者と、回答者が想定した園庭での遊び場の数に着目、データを抽出した(Table.1)。次に、それぞれの役職において園庭での場の機能が回答された具体的な遊び場の上位5位を抽出、検討した【構造の質とプロセスの質の関連の検討】。

Table.1 場が持つ機能において各園で想定される遊び場の平均回答数と回答者の役職

遊び場の機能	園での役職		管理職 (n=922)		実践者 (n=445)		事務員 (n=111)	
			平均	SD	平均	SD	平均	SD
1 隠れて遊べる場			2.23	0.38	2.64	0.12	2.36	0.21
2 一息つくことができる場			2.65	0.28	3.18	0.13	2.80	0.16
3 繰り返し遊べる場			5.16	0.45	6.25	0.60	5.57	0.59
4 色々な発想を形にできる場			2.92	0.42	3.68	0.48	2.80	0.25
5 他児の遊びを見られる場			4.19	0.16	4.84	0.16	3.98	0.52
6 ルール・規範が生じる場			4.57	0.72	5.32	0.33	4.74	0.57
7 挑戦できる場			3.71	0.78	4.39	0.46	3.48	0.25
8 待ち合わせ・集まれる場			3.31	0.56	4.09	0.45	3.52	0.32
9 想像を膨らませられる場			3.27	0.42	4.01	0.43	3.30	0.36
10 五感を働かせられる場			4.23	0.91	4.81	0.34	4.23	1.19

(1) 役職により言及する場所数に違いがある。特に、子どもと実際に触れ合うことが多い**実践者の場所数が多い**。

(2) 3役職それぞれに、機能が想定される場の数での分散の大小が異なる。園ごとに置かれる環境の違いはあるが、**役職固有に場を捉える視点を持つ可能性が想定される**。

(3) 3役職それぞれの回答に**差異**はあるが、3役職の回答傾向は**類似**する。新たに環境設定をする際、一つの目安になり得る。

→ **子どもの姿の想定とともに多様な役職の視点を軸に園庭の場を捉えることの可能性が指摘される。**

管理職	実践者	事務員
1位 複合型遊具 298	複合型遊具 196	複合型遊具 52
2位 遊び小屋 295	遊び小屋 181	遊び小屋 46
3位 樹木 265	樹木 152	樹木 37
4位 トンネル 220	トンネル 127	トンネル 36
5位 築山・斜面 172	園庭全体 97	園庭全体 19

管理職	実践者	事務員
1位 砂場 622	砂場 318	砂場 71
2位 園庭全体 421	複合型遊具 223	複合型遊具 60
3位 滑り台 390	滑り台 219	滑り台 60
4位 複合型遊具 349	園庭全体 217	鉄棒 58
5位 屋外用机 137	屋外用机 73	複合型遊具 15

管理職	実践者	事務員
1位 砂場 622	砂場 318	砂場 71
2位 園庭全体 421	複合型遊具 223	複合型遊具 60
3位 滑り台 390	滑り台 219	滑り台 60
4位 複合型遊具 349	園庭全体 217	鉄棒 58
5位 鉄棒 342	鉄棒 203	園庭全体 48

管理職	実践者	事務員
1位 砂場 681	砂場 354	砂場 83
2位 土の場所 292	園庭全体 174	園庭全体 37
3位 園庭全体 285	土の場所 155	土の場所 32
4位 複合型遊具 146	開けたスペース 108	開けたスペース 21
5位 築山・斜面 144	築山・斜面 91	遊び小屋 18

管理職	実践者	事務員
1位 園庭全体 556	園庭全体 318	園庭全体 72
2位 砂場 385	砂場 203	砂場 40
3位 複合型遊具 237	複合型遊具 161	複合型遊具 37
4位 開けたスペース 218	開けたスペース 144	開けたスペース 32
5位 築山・斜面 199	複合型遊具 144	鉄棒、ダンケララ 28

管理職	実践者	事務員
1位 砂場 441	砂場 230	複合型遊具 57
2位 園庭全体 422	園庭全体 225	砂場 51
3位 滑り台 358	滑り台 211	滑り台 51
4位 複合型遊具 341	複合型遊具 193	園庭全体 47
5位 ブランコ 306	ブランコ 170	鉄棒 42

管理職	実践者	事務員
1位 鉄棒 521	鉄棒 286	鉄棒 65
2位 園庭全体 337	うんてい 196	うんてい 45
3位 うんてい 336	登り棒 189	園庭全体 35
4位 登り棒 327	園庭全体 184	複合型遊具 33
5位 砂場 250	砂場 153	砂場 28

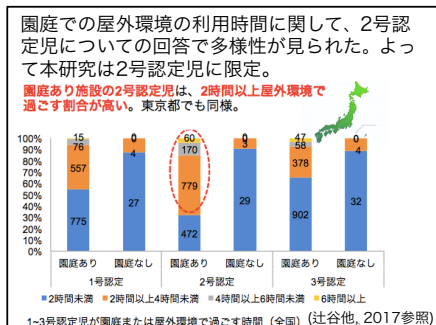
管理職	実践者	事務員
1位 砂場 402	砂場 228	砂場 50
2位 園庭全体 298	園庭全体 159	園庭全体 41
3位 鉄棒、ダンケララ 236	鉄棒、ダンケララ 145	園庭全体 39
4位 複合型遊具 231	複合型遊具 142	鉄棒、ダンケララ 29
5位 遊び小屋 178	遊び小屋 114	遊び小屋 27

管理職	実践者	事務員
1位 砂場 642	砂場 321	砂場 70
2位 園庭全体 315	園庭全体 195	園庭全体 48
3位 土の場所 248	土の場所 123	複合型遊具 29
4位 遊び小屋 169	遊び小屋 121	遊び小屋 25
5位 鉄棒、芝生地 166	築山・斜面 104	土の場所 24

管理職	実践者	事務員
1位 砂場 516	砂場 269	園庭全体 56
2位 園庭全体 377	園庭全体 223	砂場 54
3位 築山 341	花壇 177	築山 38
4位 花壇 308	築山 169	花壇 36
5位 樹木 298	樹木 168	樹木 29

(2) 回答された遊び場数と園庭活動時間との関係

認定こども園の2号認定児の活動に着目し、各園の園庭での子どもの活動時間と場の機能が想定される遊び場数の関連を検討する(Fig.2)【構造の質、プロセスの質、時間の関連の検討】。



2号認定児	
2時間未満	472
2-4時間	779
4-6時間	170
6時間以上	60

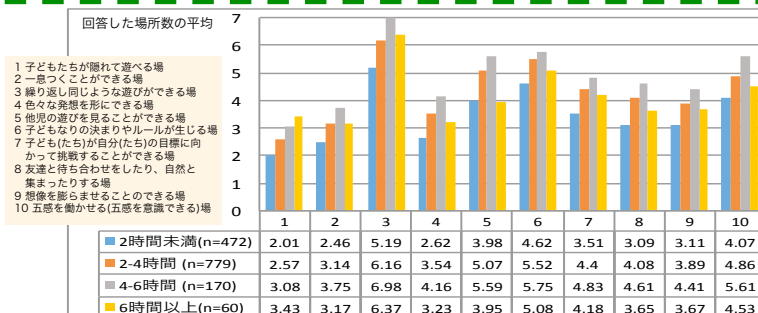


Fig.2 子どもの好きな機能を持つ遊び場の平均回答数と園庭活動時間 (2号認定施設)

- (1) 園庭での活動時間により言及する場所数に違いが見られ、特に**2-4時間、4-6時間**での場所数が多い。
- (2) 活動時間ごとに回答された場所数の最小値と最大値の差は平均約1.5ある。**適当な活動時間がある可能性が示唆**。
→ **適切な活動時間と保育に関与する者の場の見取りとの関連が想定される。**

4. 総合考察

- 役職で場所回答数に違いはあるが、場の機能を捉える遊び場の場所は類似することが示された(3-1)。
→ **子どもの活動の観点から環境設定・配置を検討する一つの方向性が提示された。**
- 場の機能の捉えは、活動時間数にも関連があることが示された(3-2)。
→ 遊びを保障する時間の観点(Blatchford, 1998)は、**活動の質と場の検討に有用であるが、適時性(適切な活動時間)を持つ。**
- 場の意味的(質的)な検討は、そこに関与する者の解釈や活動時間と共に**機能から場を設ける可能性を示唆する(3-1, 3-2)。**

5. 課題

園庭に関する環境構成の知識や技術の獲得は難しい。また、園庭の場を物理的に拡張することも困難である。役職の視点や活動時間とともに、子どもが場を通して何を経験しているのかといった、**活動の質の観点から場を検討し、物理的(量的)な場の拡張だけではなく、場の意味的(質的)な拡張に取り組む可能性をさらに探究していく必要がある。**

→ (1) 園庭環境の多様性と場の機能を捉える遊び場数との関連の探究、(2) 園人数と場の機能を捉える遊び場数の関連の探究

本発表は、東京大学大学院附属発達保育実践政策学センターSEED研究助成支援を受け、2017年に調査した内容の一部を分析し報告するものです。本調査にご協力いただいた園の皆様へに格別の感謝を申し上げます。